

# ISO 26262 トレーニング体系変更について

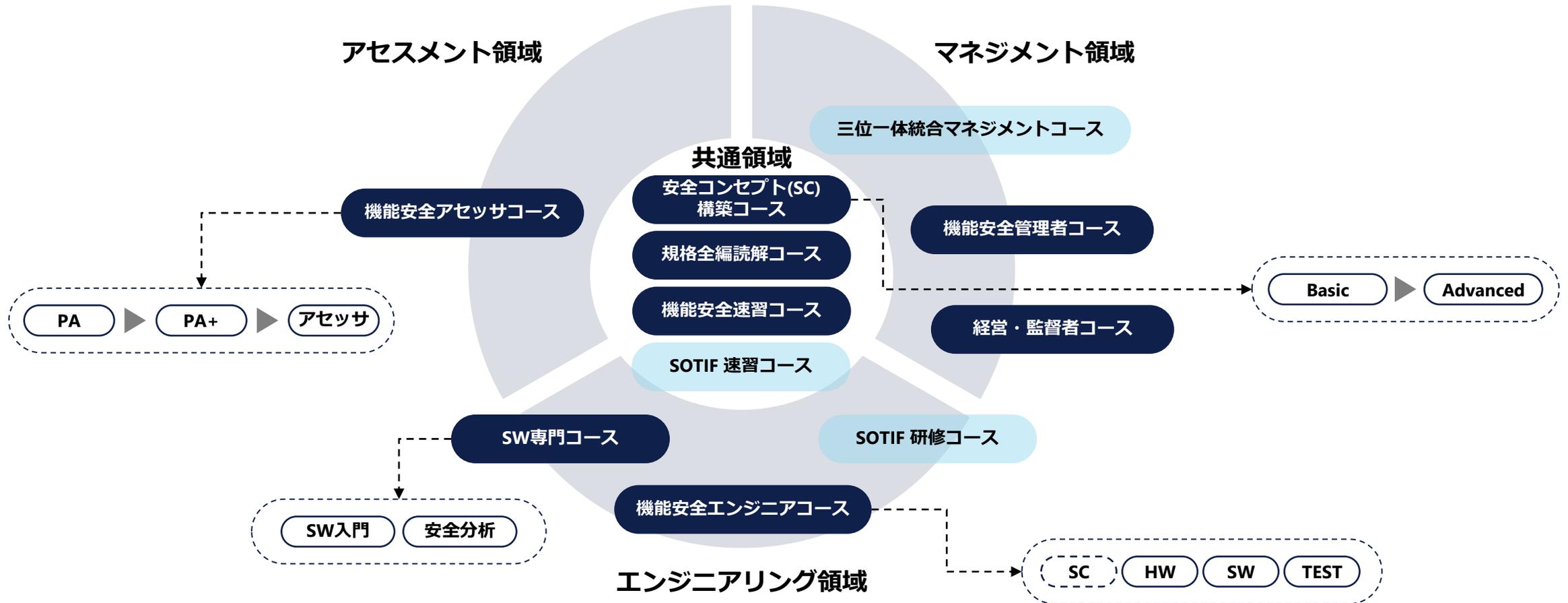
DNVビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社  
セーフティ&セキュリティ事業部

2023年8月7日



# トレーニング体系変更：体系について(1/2)

- 前述の背景を鑑みて、現行の階層型のトレーニング体系を刷新し、**目的指向型のトレーニング体系へと変更**しました。変更点は、「各コースカテゴリへのダイレクトアクセス」と「4つのトレーニング領域の定義」です。



## トレーニング体系変更：体系について(2/2)

### 各コースカテゴリへのダイレクトアクセス

- 従来までの階層型体系では、ボトムアップ的なスキルパスしか選択出来ませんでした。目的指向型体系では、**現在の受講者の関心事に直結するコースカテゴリを、ダイレクトに受講が可能**となります。
- つまり、受講者の関心事や現在の職域において、**全てのコースカテゴリが、自身のスキルアップの入口であり、出口となり得ます。**

### 4つのトレーニング領域の定義

- 機能安全活動において専門性が求められる3つの領域を定義しました。
  - **エンジニアリング領域**：システム開発の柱となる**技術者向けのトレーニング**を提供します。
  - **マネジメント領域**：安全管理者を始めとする**管理監督者層に求められる様々な知識とスキル**を習得いただけます。
  - **アセスメント領域**：機能安全アセッサを始めとする**確証方策実施者が、備えるべき見識を磨く場**として活用いただけます。
- また、これら各専門職領域に共通する規格の基本を学んでいただくための領域も定義しました。
  - **共通領域**：規格全般を把握したい、規格固有の**思想を学びたい**等のニーズに応えたコースを提供します。

# トレーニング体系変更：新コース名称と新資格名称について(1/2)

上段：新コース名称 下段：新資格名称		上段：旧コース名称 下段：旧資格名称
規格全編読解コース AFSP (St) : Automotive Functional Safety Practitioner (Standard proficient)	←	基礎コース AFSP-B
安全コンセプト構築コース ベーシック編 AFSP (SC) : Automotive Functional Safety Practitioner (Safety Concept developer)	←	エンジニアコース SYS編 AFSP-C (Sys)
安全コンセプト構築コース アドバンスト編 AFSP (SCAdv) : Automotive Functional Safety Practitioner (Safety Concept developer Advanced)	←	エンジニアコース SYSAD編 AFSP-C (SysAD)
機能安全エンジニアコース ハードウェア編 AFSP (HW) : Automotive Functional Safety Practitioner (Hardware engineer)	←	エンジニアコース HW編 AFSP-C (HW)
機能安全エンジニアコース ソフトウェア編 AFSP (SW) : Automotive Functional Safety Practitioner (Software engineer)	←	エンジニアコース SW編 AFSP-C (SW)
機能安全エンジニアコース テスト編 AFSP (Test) : Automotive Functional Safety Practitioner (Test engineer)	←	エンジニアコース TEST編 AFSP-C (Test)
機能安全管理者コース AFSM : Automotive Functional Safety Manager	←	シニアエンジニアコース AFSP-P
機能安全アセッサコース プロビジョナルアセッサ編 AFSA-P : Automotive Functional Safety Assessor - Provisional	←	プロビジョナルアセッサコース AFSA-p
機能安全アセッサコース プロビジョナルアセッサ+編 AFSA-P+ : Automotive Functional Safety Assessor - Provisional+	←	n/a(※今後、新設予定)
機能安全アセッサコース アセッサ編 AFSA : Automotive Functional Safety Assessor	←	評価者コース AFSExpert

## トレーニング体系変更：新コース名称と新資格名称について(2/2)

上段：新コース名称 下段：新資格名称	上段：旧コース名称 下段：旧資格名称
機能安全速習コース 無し	← ISO 26262 速習コース 無し
ソフトウェア専門コース 機能安全ソフトウェア開発入門編 無し	← 機能安全SW開発入門編 無し
ソフトウェア専門コース ソフトウェア安全指向分析演習編 無し	← SW安全指向分析コース 無し
三位一体統合マネジメントコース 無し	← n/a(※23年7月に新設)
SOTIF 速習コース 無し	← SOTIF 速習コース 無し
SOTIF 研修コース ASIP : Automotive SOTIF Practitioner	← SOTIF 研修コース ASIP

## トレーニング体系変更：Q&A(1/2)

---

- トレーニング体系変更の適用日は？
  - 本体系変更は、2023年7月5日以降に開講されるコースから適用されます。また、資格更新においては、2023年7月5日以降に有効期限を迎える資格証を保有している方が、資格更新試験に合格された場合、資格証は新たな資格名称で発行となります。
- 従来のエンジニアコース SYS編 & SYSAD編が無くなっているように見えるが？
  - SYS編 & SYSAD編は、従来よりSYS領域を含むカリキュラムですが、一方で、領域外のPart.3, 5, 6のSR/SCも取り扱っており、SR/SCは機能安全対応における共通的な知識領域であると考えています。よって、エンジニアコースではなく、安全コンセプト構築コースというカテゴリに再配置しております。
- アセッサコースと安全コンセプト構築コースの▶は、何を意図しているのか？
  - 以下2コースに含まれるカリキュラムのみ、従来通り、以下の順番で受講が必要となります。
    - アセッサコース：PA編 → PA+編 → アセッサ編
    - 安全コンセプト構築コース：Basic編 → Advanced編

## トレーニング体系変更：Q&A(2/2)

---

- 従来の階層型トレーニング体系は、社内教育時に説明がしやすいのだが、どのように考えるべきか？
  - 従来の階層型トレーニング体系は、変更した目的指向型トレーニング体系に包含されるものだと考えております。よって、ボトムアップ型としてのスキル獲得を目指す場合には、従来の階層型トレーニング体系が推奨されると考えております。
- 価格は変更されるのか？
  - 従来の価格が維持されます。
- 現在取得している資格の扱いは？
  - 取得頂いている資格に関しては、期限を迎えるまで有効です。
  - 資格更新においては、自身が必要と考える資格を選択して更新できます。
- どのコースを受講した方が良いかについて、相談に乗ってもらえるか？
  - 様々なケースが考えられるため、お気軽にお声がけください。お問合せ先は [Kobe.bajfs@dnv.com](mailto:Kobe.bajfs@dnv.com) です。

# Case Study

## Case 1：機能安全に関わってきた経験を買われ、部内でアセッサに任命された

### ・ トップダウン型カリキュラム

- ・ 現在の職位・職域に合わせたコースの組み立てを検討いただけます。

#### ・ Step1：アセッサコース

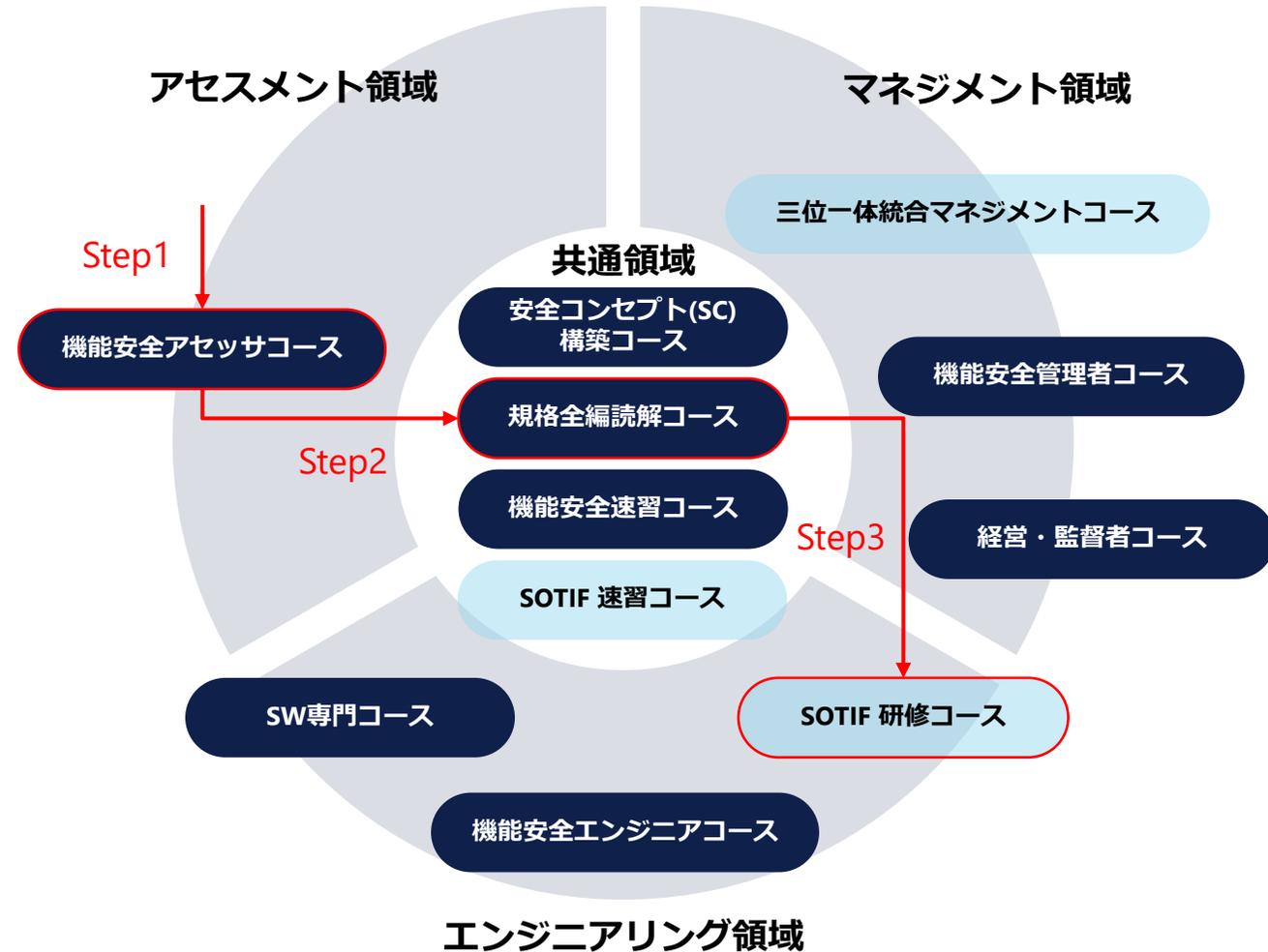
アセッサとは何をすべきなのかを学ぶためにアセッサコースを受講する。

#### ・ Step2：規格全編読解コース

アセッサコースを受講中に、規格全体の自身の理解が不十分なことが分かり、規格全編読解コースを受講する。

#### ・ Step3：SOTIFコース

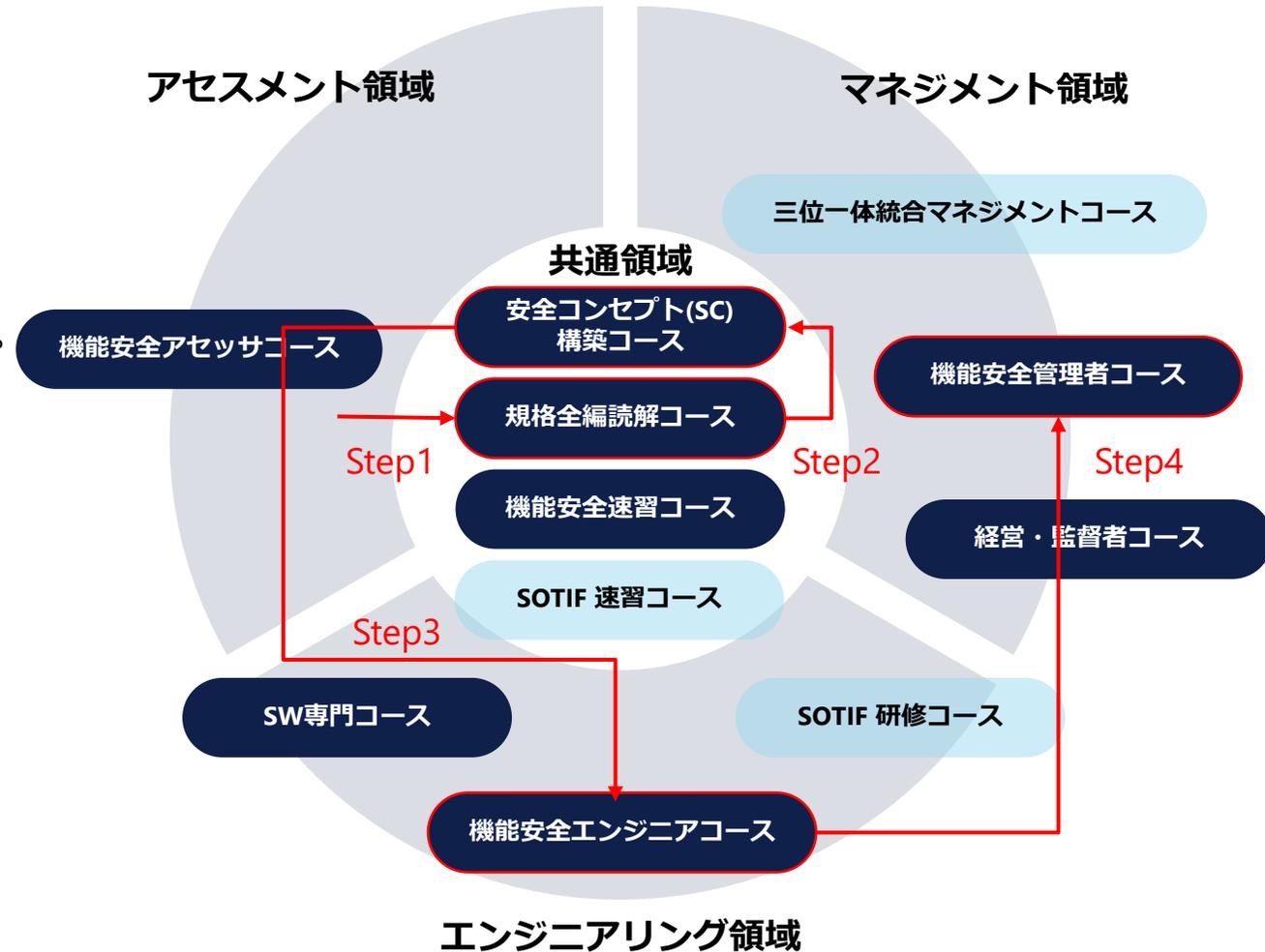
ISO 26262以外の基礎知識として、SOTIFも理解しておくべきだと気づいた為、SOTIFコースの速習編を受講する。



## Case 2 : 部署異動で機能安全を一から学ぶ必要が出てきた

### ・ボトムアップ型カリキュラム

- ・キャリアアップに合わせたスキルアップを検討いただけます。
- ・ **Step1 : 規格全編読解コース**  
まず、規格全編読解コースで機能安全の基礎を習得する。
- ・ **Step2 : 安全コンセプト構築コース**  
安全コンセプトは機能安全対応における共通的な知識領域であるため、安全コンセプト構築コースを受講する。
- ・ **Step3 : エンジニアコース**  
担当領域であるHWに関することを知りたいので、エンジニアコースのHW編を受講する。
- ・ **Step4 : 機能安全管理者コース**  
目指すべき役割に備えて、事前の知識習得として、機能安全管理者コースを受講する。



## Case 3 : SW領域の機能安全を担当してきたが、スキル補強の為に、何か受講したい

### • ランダムアクセス型カリキュラム

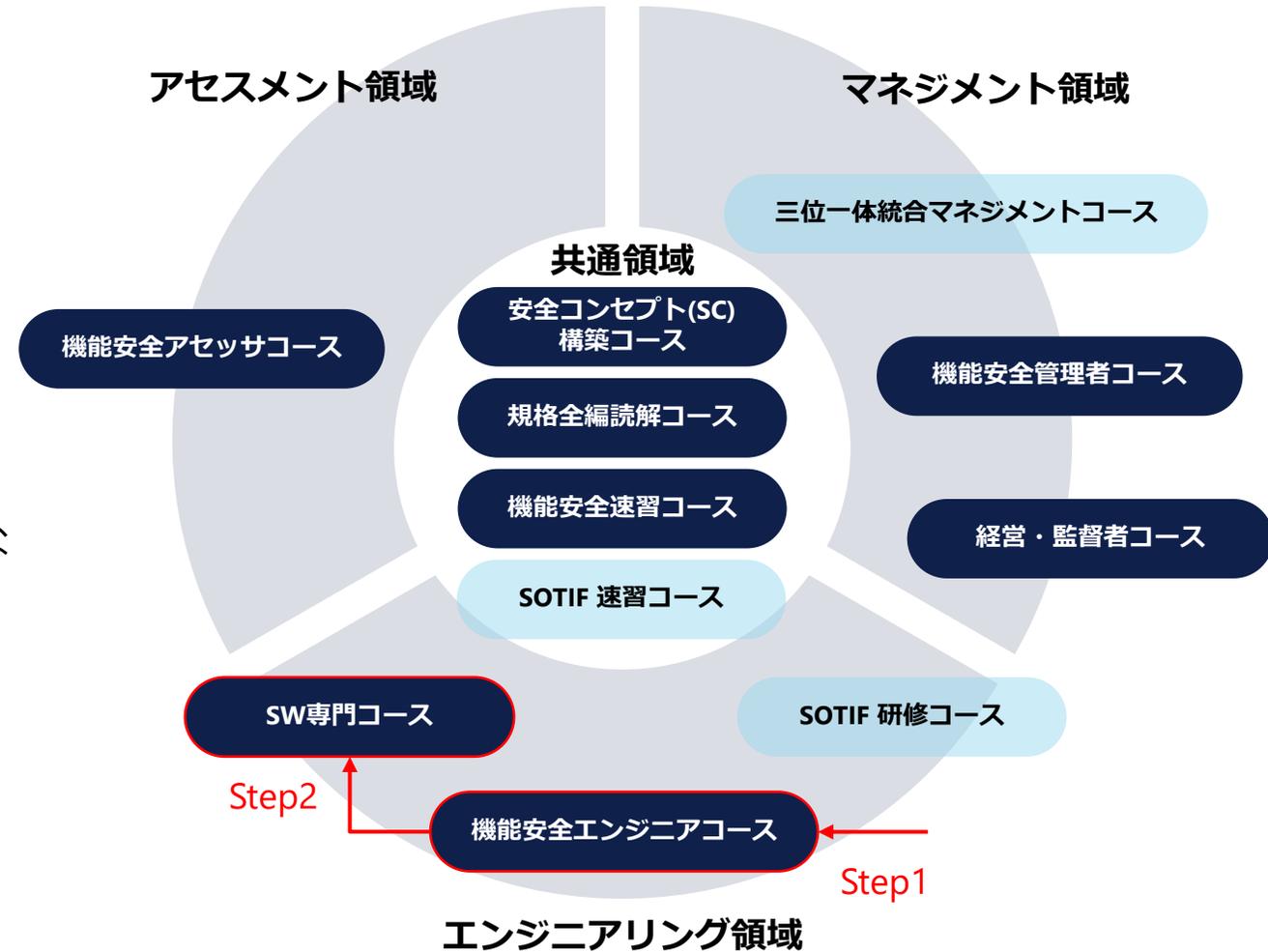
- 自身の受講目的に合わせて、スポットでコース選択が可能です。

### • Step1 : エンジニアコース

SW領域のスキル補強の為にエンジニアコースのSW編を受講する。

### • Step2 : SW専門コース

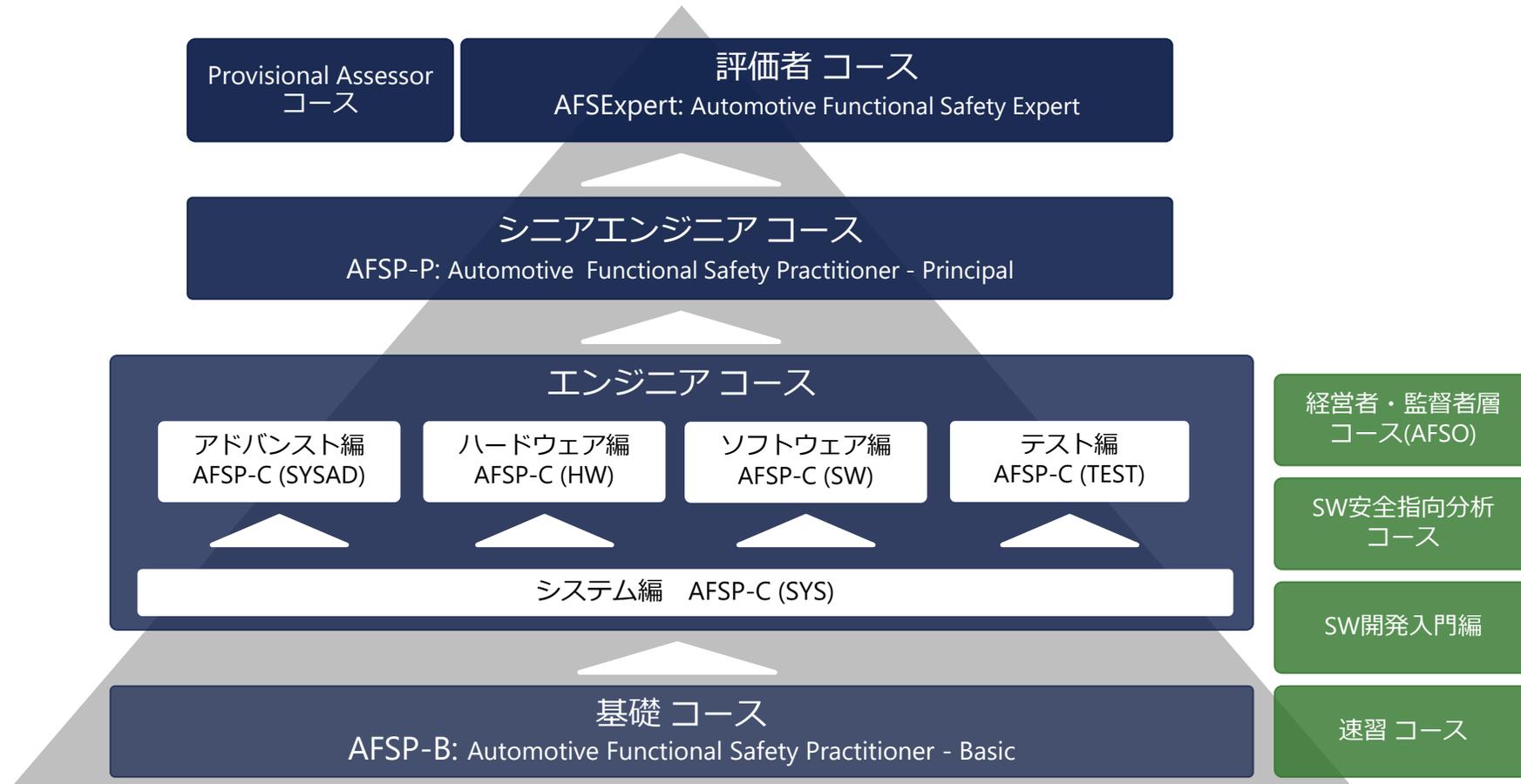
SW領域の安全分析をより深く理解するために、実践的な演習に取り組めるSW専門コースのSW安全指向分析編を受講する。



ご参考) 旧トレーニング体系

## ご参考) 旧トレーニング体系

- 旧トレーニング体系は、組織階層を軸としたキャリアとスキルの連動を考慮した上で、基礎コースから、各受講者のキャリアとスキルに合わせて、順番に受講頂く体系でした。ただし、新体系に変更後も、ボトムアップ型のカリキュラムは、受講者の目的によって、推奨される体系となり得ます。



トレーニング体系変更に関するお問い合わせ先

[Kobe.bajfs@dnv.com](mailto:Kobe.bajfs@dnv.com)

[www.dnv.com](http://www.dnv.com)

